

CVP レコード要素-無音検出ははたらきません

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[問題](#)

[背景説明](#)

[解決策](#)

[CVP 広範囲のフロー](#)

[CVP 自己 常用ブレーキ](#)

概要

この資料は無音検出がはたらかないシナリオに要素を記録することが Cisco 音声門脈 (CVP) コール スタジオ アプリケーションで使用されるとき根本的な原因およびソリューションを記述したものです

ラミロ Amaya によって貢献される、Cisco TAC エンジニア。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- CVP
- 音声 XML (VXML) ゲートウェイ

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のハードウェアに基づくものです。

- CVP 8.5 またはより高い
- 音声 XML (VXML) ゲートウェイ

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。こ

のドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。 ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

問題

発信者が連絡先センターに呼出し、CVP コール スタジオ アプリケーションの記録要素を使用してメッセージを記録するように要求されるとき無音検出ははたらかないし、コールはすぐに接続が解除されます。 発信者がポンド キーを (#) 押せば、コールはうまく働きます。

背景説明

レコード音声 要素は発信者の音声の記録を作ります。 プロンプトは発信者にされますそれから音声 要素が発信者を記録するか。 終了 キーが入力されるまで s 音声は、記録 時刻制限達しました、または (設定が従って規定 すれば) 発信者はハングアップされました。 システムが発信者を記録して準備ができていることに可聴周波キュー (発信音) は発信者に信号を送るためにアクティブになるかもしれませんか。 s 音声。 異なる音声ブラウザは音声記録のための期間さまざまデフォルトの最高値があるかもしれません。

記録は音声ブラウザによってレコード要素に送信され、開発者が規定する位置の音声ファイルで保存されます。 同じ名前などの既存ファイルでも上書きされます。 要素は非繰り返しファイル名を生成するために設定することができます従ってすべての記録物は保つことができます。 このファイル名のための形式は深夜 1970 年 1 月 1 日 (GMT) ので N がミリ秒数の audioNR.wav ですおよび R は 1 から 1000 間の乱数です。 すべての記録物は WAV 形式で保存されます。

解決策

CVP 広範囲のフロー

はたらく無音検出に関してはゲートウェイ ダイアル ピアの Voice Activity Detection (VAD) を有効にして下さい。 手動で NO VAD を設定 スクリプトから取除き、VAD とそれを取り替えて下さい。

CVP 自己 常用ブレーキ

CVP 自己 常用ブレーキが展開されるとき、VAD は消えます。 呼び出し切断問題を軽減するために、記録要素の**最大記録 時刻** 設定よりより少なく値にゲートウェイのリアルタイムトランスポートプロトコル (RTP) /RTP 制御プロトコル (RTCP) タイマーを設定する必要があります。

次の例は IP RTCP レポート間隔 コマンドおよびそれから 5000 ミリ秒にレポート間隔を設定するのにコマンドをtimer media-inactive5.に乘算ファクタを設定するために使用します。 結果はこと非アクティブとして検出する 25 秒の呼び出しです (時 5,000 ミリ秒は 5) 切断されています。 最大記録 時刻 (レコード要素) は値により少しより 25 秒設定する必要があります

```
Router(config)# ip rtcp report interval 5000
Router(config)# gateway
Router(config-gateway)# timer media-inactive 5
Router(config-gateway)# exit
```